

## 学校統廃合の歴史

今から44年前の昭和48年4月に私の教員生活は始まりました。その頃の尾鷲市内の学校数は、小学校13校、中学校5校。小学校児童数は、3116人。中学校生徒数は、1526人でした。現在の学校数は、小学校7校、中学校2校。小学校児童数は、743人。中学校生徒数は、370人となっています。

※ 参考までに、昭和48年4月当時の各小学校の児童数を紹介します。

(下段の数字は、平成29年4月現在の児童数)

尾鷲	宮之上	矢浜	向井	九鬼	早田	三木	三木里	古江	賀田	曾根	梶賀	須賀利
1265	601	188	146	113	45	151	142	131	148	36	49	101
482	103	65	19			18	13		25			

尾鷲市の学校統廃合の歴史を調べてみますと、昭和の時代には、昭和41年4月に行野小(27名)が向井小に、昭和56年に曾根小(9名)が賀田小に、昭和62年4月に早田小(12名)が九鬼小へ統合されています。

平成に入ると、平成2年の国勢調査で、本市の人口は昭和35年の国勢調査の34,534人から27,114人にまで低下しています。全国的な傾向である出生率の低下もみられ、人口減少もだんだんと進んできました。市内の小学校でも、複式学級をもつ学校が増加してきたのもこの頃です。

児童生徒数の減少がこのまま進行すれば、学校の小規模化を徐々に加速化させていくことから、平成3年9月に「尾鷲市における幼稚園・小中学校の適正規模及び適正配置について」答申が出され、それを受けて、平成4年10月に「尾鷲市における児童生徒の減少による学校配置構想」が出されました。

答申や構想には、『学校の適正化にあたり、規模について、「学校の再編成については、各学校とも全校児童、生徒数30名以下を検討の対象とする。」ということを目当てとして、学校教育充実のため、地域住民の理解と協力を得ながら進める。』とあります。また、構想の期間は、平成5年度から平成15年度とし、将来の適正配置については、児童生徒数の推移に大きな変化がない限り、中学校を2校区(尾鷲地区、輪内地区)、小学校を9校区(尾鷲地区4

校区、須賀利地区1校区、九鬼地区1校区、輪内地区3校区)とあります。

さらに、校区の編成計画や進め方については、目途として平成7年度に須賀利地区、平成9年度に南輪内地区、平成11年度に九鬼地区、平成13年度には北輪内地区と示されています。しかしながら、統廃合が実現した年度は当初の予定より少しずれて、平成9年4月に須賀利中(7名)が尾鷲中に、平成10年4月に梶賀小(12名)が賀田小に、平成13年に須賀利小(3名)が矢口小に、平成16年4月に古江小(11名)が賀田小に、平成17年4月に北輪内中学校(17名)が輪内中に統合されるかたちで進められました。

2005(平成17年)年度以降は、我が国の出生率が1.25人と漸減していることや、本市の基幹産業の衰退や企業の撤退による若年層の職場の喪失を合わせて考えると、本市における児童生徒数の減少はなかなか歯止めがかからない状態になってきていて、数字の上から見ればいくつかの学校が存亡の危機に立たされているといった状況でした。

そこで、平成18年には、平成2年に続いて尾鷲市立小中学校等適正規模適正配置検討委員会(以下、検討委員会という)が設置されました。ここでは、前回の検討委員会の答申及び平成4年10月の尾鷲市教育委員会によりまとめられた「尾鷲市における児童生徒の減少による学校等配置構想」を尊重し、これを基本に据えつつも、新しい時代に対応する、新たな構想の答申を検討することになりました。

平成18年9月に出された「答申」では、平成4年10月の学校配置構想にある、「学校の再編成については各学校とも全校児童、生徒数30名以下を検討対象とする。」を受けて、再編成の検討対象としての学校が上げられ、次のような方向性が示されました。

『小学校においては、「九鬼小学校(6人)、三木小学校(19人)、三木里小学校(27人)」、中学校においては「九鬼中学校(11人)」が該当する。このうち、九鬼中学校ではすでに平成11年度を目途に、尾鷲中学校に統合することが示されているが、他の学校においては、統廃合について特に触れられていない。しかし、先の配置構想で示された再編成の検討対象から考えると、まず上記の4つの学校、とりわけ、九鬼地区の小・中学校について早急に検討すべきであろう。』

この「答申」を受けて平成19年8月に「尾鷲市小中学校配置計画」が出されました。そして、平成18年9月の「答申」と平成19年8月の「配置計画」をもとに、平成21年4月には九鬼中(5名)が輪内中に(本来は尾鷲中に)統合され、平成22年4月には九鬼小(6名)が賀田小に統合されました。